公　　民　［ 倫理 ］　（100 点　50 分）

2018 年 7 月 2 日（月）1 限　実施
前期②考査
千葉県立長生高等学校　第 3 学年　全組

Edited by K.Kataoka

注　意　事　項

１　試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。

２　解答用紙はマークシート式です。

３　受験番号はアルファベットを数字に直し，次の例のように５桁で記入してマークを忘れないこと。
例　３年Ｄ組１番　→　30401

４　試験中に解答用紙の不足，問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は，手を挙げて監督者に知らせなさい。

５　試験終了後，問題冊子は持ち帰って復習をするとともに，答案返却の際に持参すること。

倫　　理

（解答番号［1］～［50］）

第１問　次の文章を読み下の問い（**問１～問４**）に答えよ。（配点　14）

古代ギリシアの哲学者アリストテレスは (a)万学の祖と呼ばれるように数々の分野で後世に大きな影響を与えた。スタゲイラに生まれ，父は［　1　］王の侍医ニコマコス，母はファイスティス。前 367 年アテナイに上り，プラトンの学校［　2　］で師の死まで 20 年間研究生活を送る。前 347 年プラトンの没後，同学のクセノクラテスらとともにアテナイを去る。前 342 年［　1　］王フィリッポスに招かれ，王子アレクサンドロスの家庭教師として 7 年間をすごす。アレクサンドロスが王位継承して後，アジア遠征に出発する年の前年(前 335)，アリストテレスは［　1　］支配下になったアテナイに帰って，北東郊外の［　3　］に新しい学校を開く。ここには書物も多く収集され，後世の本格的な図書館の先駆ともなった。この［　3　］校の学頭をつとめていた 12 年間は，研究･教育の両面で最も円熟した時期であったが，前 323 年アレクサンドロスがバビロンで急死すると，アテナイでは反［　1　］の機運が高まり，［　1　］側の人物と見られたアリストテレスは不敬神のかどで訴えられ，母の出身地のカルキスにのがれて翌年その地で病没した。

今日『アリストテレス著作集』として伝わるものは，前 1 世紀，それまで世に埋もれていた彼の講義用論文を，アンドロニコスがアリストテレス自身の学問の区別(理論的，［　4　］的，制作的)に基づいて主題別に編集したものがもとになっている。彼の哲学を完結した体系として扱う後世の研究態度はここに由来する。

アリストテレスの思考の大きな特徴の一つに，言葉の多義性に注目した分析の精密さがあげられる。彼は〈名辞〉〈述語〉〈命題〉などといった根本概念を確定したうえで史上初めて (b)三段論法の定式化をなしとげ，その後の論理学の基礎をきづいた。

問１　文章中の空欄［　1　］～［　4　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［　1　］
① シリア　② マケドニア
③ エジプト　④ スパルタ

［　2　］
① リュケイオン　② アカデメイア
③ キュニコス　④ ストアポイキレ

［　3　］
① リュケイオン　② アカデメイア
③ キュニコス　④ ストアポイキレ

［　4　］
① 観念　② 実体
③ 観想　④ 実践

問２　下線部(a)に関して，アリストテレスの著作として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。［5］

①　詩学　　②　形而上学　　③　生物学　　④　政治学

問３　下線部(b)に関連して，アリストテレスが定式化した三段論法についての説明を読み，Ｉ判断の命題として最も適当なものを下の①～④のうちから一つ選べ。［6］

三段論法とは二つの前提から一つの結論を導く論理的推論のこと。間接推理を含む。前提の連言から結論への含意であるといってもよい。ただし、前提も結論も、二つの項が結合されてできた命題である。たとえば、「すべての動物は生物である」「すべての人間は動物である」という二つの前提から、「すべての人間は生物である」という結論を得る推論は典型的な三段論法である。この例から明らかなように、ここでいう項は、人間、動物、生物といった概念、すなわち普遍的な何かを表していると考えられる。

いわゆるアリストテレス式三段論法においては、項と項の結合には四つの種類がある。すなわち、全称肯定判断、全称否定判断、特称肯定判断、特称否定判断の四つである。これらは、西洋中世の伝統に従って、Ａ判断、Ｅ判断、Ｉ判断、Ｏ判断とよばれる。そして、それぞれ、「すべてのＡはＢである」、「すべてのＡはＢでない」、「あるＡはＢである」、「あるＡはＢでない」という形で表される。これから明らかなように、三段論法は、基本的には、自然言語の論理である。

①　すべての女王蜂は雌である
②　ある昆虫は羽を持たない
③　すべてのほ乳類は卵を産まない
④　ある動物は海中に住んでいる

問４　次の文はアリストテレスの著作『自然学』の一節である。文中の空欄［　7　］に入る最も適当な語を，下の①～④のうちから一つ選べ。

最も明白に自然の［　7　］性の認められるのは，動物においてである。それらは技術によってでもなく，探究したり考慮したりしてでもなしに，仕事をするものである。だが，この方向に少しずつ歩を進めると，植物のうちにもその［　7　］にむいているものの生じていることが明らかになる。たとえば，木の葉が果実を覆い守るために生えるなどそれである。したがって，もしツバメが巣を作り，蜘蛛が網を張り，また植物がその果実のために葉を生やし，栄養をとるために根を下におろすなどが自然によってであるとともに，なにかのためにでもあるとすれば，自然によって生成し存在する物事のうちにこうした［　7　］が存することは明白である。

①　法則　　②　目的　　③　自発　　④　手段

第２問　次の文章を読み下の問い（**問１～問２**）に答えよ。(配点　16)

アリストテレスによれば，どんな学問も第 1 の原理･原因を知ることによって初めて本当の知識となるのだが，自然の事象の原因となるものには 4 種類ある。すなわち，(1)［　8　］因(何であるか，本質)，(2)質料因(何からできているか，素材)，(3)始動因(運動変化を起こさせるもの)，(4)目的因(何のためか)がそれである。彼はタレス以来の彼に先立つ哲学者たちの求めていたものがこの 4 原因のどれかに当たり，その範囲を出るものではないと見た。

このうちの［　8　］因は，ソクラテスの「何であるか」の問いと，それを引き継いだプラトンのイデア論の考えを受け継ぐものである。しかしアリストテレスは，イデアがそれ自体として独立に存在すると考えるのは［　9　］的なものを個物とみなすことになるなどの理由で，イデア論そのものは批判し退けた。彼の［　8　］はそれと異なり，つねに素材と対をなし，具体的な個物のうちに(規定の言葉(ロゴス)において以外は)素材と切り離せないものとして結びついているものである。この［　8　］と素材はまた［　10　］と可能態(デュナミス)とにそれぞれ対応する。たとえば素材としての木材は家の可能態であり，大工によって［　8　］を与えられて現実の家となる。この場合，家の［　8　］は目的でもあるが，自然物，すなわち運動変化の始原を自身のうちにもっているものの場合には，「人間が人間を生む」という彼の愛用した言葉が示すように，始動因(生む人間)も［　8　］･目的因と一つに帰着する。彼は自然界に内在するこのような［　8　］と目的とを発見することのできる喜びに駆られて，生物学の分野，とくに動物学の研究に打ち込み，数百種の動物を記述して類･種による階層的な分類を行うという巨大な業績を残した。そのような生物の生育もさらに上位の天体の運動も含む自然界のあらゆる動(運動･変化)の最終的な原因(根拠)となるもの，これを彼は，みずからは動かされることなしに他のものを動かす〈不動の(第一)動者〉としての［　11　］とする。この［　11　］のあり方は，いかなる素材的要素とも無縁の純粋な知性の現実活動として語られている。今日［　12　］学と呼ばれているものを彼は第一哲学とか神学とか呼んだが，それは〈存在を存在として〉［　9　］的に研究する学問であるとともに，このような［　11　］について考察するものでもあった。

西洋の哲学，科学の歴史におけるアリストテレスの影響には計り知れないものがあるが，とくに，〈［　9　］〉と〈個別〉，〈主語〉と〈［　13　］〉，〈［　14　］〉と〈現実〉など，現代もなお使われる数多くの用語･概念を創始定着させ，それに合致するものの見方を強化したことは，彼以後の思考の流れを大きく規制する結果となった。

問１　文章中の空欄［　8　］～［　14　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［8］
① 絶対　② 現実
③ 理想　④ 形相

［9］
① 現実　② 特殊
③ 普遍　④ 一般

［10］
① ウーシア　② エイドス
③ ヒュレー　④ エネルゲイア

［11］
① 精神　② 神
③ 物体　④ 霊

［12］
① 天文　② 物理
③ 形而上　④ 現象

［13］
① 補語　② 目的語
③ 動詞　④ 述語

［14］
① 可能　② 実現
③ 知恵　④ 想像

問２　アリストテレスが書いた次の文が示す論理の内容として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。［15］

このような原理がなによりも最も確かなものであることは明らかである。それは「同じものが，同時に，また同じ事情のもとで，同じものに存続しかつ存続しないということは不可能である」という原理である。これがすべての原理のうちで最も確かな原理である。何人も「同じものがありかつあらぬ」と信じることは不可能だから，たとえある人々はヘラクレイトスがそう言ったと思っているにしても。あるドクサ（意見・判断）に対して逆にこれを否定する判断がそうした「反対のこと」であるとすれば，同じ人が同じものをあると信じると同時にあらぬと信じることの不可能であることは明白である。なぜなら，この点であやまるなら，その人は二つの相反するドクサを同時に抱くものとなろうからである。それゆえ，およそ論証をするものはすべて，この原理（矛盾律）を論証の終極のドクサとしてその論証をこの原理まで還元する。なぜならこの原理はその本性上，他のすべての公理にとってさえ，それらの原理なのだから。

① ある事物について同じ観点でかつ同時に、それを肯定しつつ否定することはできない
② 自分自身と一致しているべきものは，自己同一的に存在している
③ 存在するあるものがそれ自身と同一であるという場合，最低限必要な性質がある
④ ある事象について，二つの相反するものにその中間は存在しない

第３問　次の文章を読み下の問い（**問１～問６**）に答えよ。(配点　22)

アリストテレスによれば，(a)人間の徳・卓越性は，人間に固有の能力である理性がすぐれた働きをするところにあるが，それには，真理を認識する［　16　］や実践的洞察をおこなう［　17　］などの知性的徳と，勇気，節制などの［　18　］的徳とがある。このうち前者の［　16　］にもとづいて［　A　］を目的とする［　B　］的生活を送るところに，人間の (b)幸福があり，それこそが最高善であると考えた

後者の［　18　］的徳については，アリストテレスは，日常生活の中で欲望や感情をコントロールする訓練をくり返すことを通じて実現されると考えた。つまり，この徳を身につけるには，正しい［　17　］をもつだけではまだ不十分で，よき習慣がともなわなければならないのである。そしてこの徳は，このような習慣づけのもと，［　17　］によって，欲望や感情がおちいりがちな過不足という両極端を避け，その［　19　］をとるところに成り立つとした。例えば，勇気とは，平然としていることの過多である無謀とその過少である臆病との［　19　］であり，自尊とは，名誉に関して過多である虚栄と過少である卑屈との［　19　］である。

以上のような，徳の形成のためには知だけではなく習慣づけが必要であるとする考え方のうちに，現実を重んじ観察を尊重するアリストテレスの思考態度を見ることができる。

アリストテレスは，人間は国家，社会を離れては生きることはできないと考え，「人間は［　20　］的動物である」という。そして，倫理的徳の中でも国家の成立に深くかかわる正義と［　21　］の徳を特に重んじた。

正義とは，正しいことをおこない，それを望んでいることであり，(c)全体的な正義と部分的な正義がある。そして，部分的な正義にはつぎのようなものがある。一つは，各人のもつ功績・能力・地位などに応じて富や名誉を配分する，比例を基礎とした配分的正義であり，もう一つは，裁判におけるように，各人のあいだで損得の不均衡が生じた場合，個別の事情を考慮せずに各人を等しく扱い，過不足を手当てする［　22　］的正義である。

［　21　］とは，たがいに相手が善き人であるがゆえに好意をもち，たがいに相手がより善くなること，幸福になることを相手のために願うところの相互的な愛である。アリストテレスは，「もし人々がたがいに［　21　］的であるならば正義はまったく必要でないが，しかし逆に彼らが正しい人々であっても，そこにはなお［　21　］を必要とする」といい，正義以上に［　21　］を重んじた。

問１　文章中の空欄［　16　］～［　22　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［16］
① 知恵　② 技術
③ 知性　④ 思慮

［17］
① 知恵　② 技術
③ 知性　④ 思慮

［18］
① 欲求　② 習性
③ 知性　④ 快楽

［19］
① メソテース　② ソフィア
③ フロネーシス　④ フィリア

［20］
① ポリス　② ストア
③ アゴラ　④ ロゴス

［21］
① アガペー　② ソフィア
③ エロース　④ フィリア

［22］
① 平等　② 名誉
③ 自由　④ 調整

問２　文中の空欄［　A　］［　B　］に入る語の組合せとして最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［23］

①［A］名誉の獲得［B］観想　②［A］名誉の獲得［B］政治
③［A］真理の認識［B］観想　④［A］真理の認識［B］政治

問３　文中の下線部（a）に関して，これを意味する語として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［24］

① ロゴス　② アルケー　③ アレテー　④ トポス

問４　文中の下線部（b）に関して，幸福と訳されるギリシア語として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［25］

① ΑΓΟΡΑ　② ΕΥΔΑΙΜΟΝΙΑ　③ ΒΙΒΛΟΣ　④ ΔΙΚΗ

問５　文中の下線部（c）に関して，全体的正義の内容として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［26］

① 犯罪を防ぐこと　② 真理を認識すること
③ 公正であること　④ 法を守ること

問６　欲望に関するアリストテレスの考え方の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［27］（2014 年センター本試験より）

① 欲望を理性に従わせるためには，理性がそう命じるだけでは不十分であり，実際に欲望を抑制できるような性格の形成が必要である。
② 魂の理性部分がイデアを観想してさえいれば，そのような魂は自らの欲望的部分を制御することができる。
③ 魂の平安のために，空腹を満たすことなどへの自然で必要な欲望だけをもち，贅沢(ぜいたく)や権力などへの空(むな)しい欲望は捨てるべきである。
④ 中庸の態度を保ちつつ生きるためには，禁欲的な生活を通じて欲望を排除し，魂を浄化することが必要である。

第４問　次の文章を読み，下の問い（**問１～問７**）に答えよ。(配点　22)

(a)キプロスのゼノンによって創始されたストア学派は，(b)「自然と調和して生きる」ことを理想と考えた。自然は，普遍的な理性の法則によって支配された世界であり，人間にもこの種子が宿っている。そして，自然をつらぬく法則と一致するように理性的に意志をはたらかせることによって，魂の内的な調和の状態が得られる。これは，死の恐怖や怒り，驚きなどの［　28　］に動かされることのない，まったく自由な(c)アパテイアの境地にほかならない。この境地こそ人生の目的であり，幸福すなわち最高善である。この立場を禁欲主義という。これは，理性によって心の安らぎを保ち，自足することが幸福であるという考え方であり，また，理性をもっているかぎり人間はすべて世界市民として同胞であり，平等であるという思想である。この［　29　］主義は，のちのキリスト教や，さらには近代の自然法思想にまで影響をあたえることになった。

ストア学派の禁欲主義に対し，エピクロスは快楽が最高善であり，それを追究することのなかに人生の目的としての幸福が見いだされると考えた。この立場を快楽主義という。しかし，エピクロスは，たんに瞬間的で感覚的な肉体の快楽を求めたのではない。それらは，外界への依存によって得られ，結果的には苦痛をもたらすから，真の快楽ではない。真の快楽とは，肉体の苦痛も魂の苦悩もともなわず，すべてにおいて満足感を得ることである。ここにこそ，肉体や(d)死の恐怖にわずらわされない［　30　］があり，欲望に支配されない自己充足がある。このような永続的で安定した精神的快楽を求めた彼は，「［　31　］」と説き，「エピクロスの園」といわれる学園を開いた。そこは，彼と同じ理想を求める人々が性別や身分を超え，節制と勇気と思慮にもとづいて生活する友愛の共同体であった。

この二つの学派の考えは(e)ローマ人によって継承された。とくにストア学派からは，共和政末期から帝政期にかけて，『自省録』をあらわした［　32　］らが輩出した。

問１　文章中の空欄［　28　］～［　32　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［28］
① ピュシス　② ロゴス
③ ミュトス　④ パトス

［29］
① 世界市民　② 共同体
③ 功利　④ 個人

［30］
① アタラクシア　② アパテイア
③ アウタルケイア　④ アノミー

［31］
① 魂を磨け　② 自然に従え
③ 汝自身を知れ　④ 隠れて生きよ

［32］
① セネカ　② マルクス=アウレリウス
③ キケロ　④ エピクテトス

問２　下線部(a)に関して，キプロスのゼノンが学んだこともあるキュニク派についての説明として最も適当なもの，下の①～④のうちから一つ選べ。［33］

① 社会規範を重視し，共同体としてのポリスを支えるために，正義や友愛などの倫理的徳が必要であると考えた。

② 社会規範を重視し，国民共通の利益を目的とする政治が正しい政治であるとして，政治意識の向上に努めた。

③ 社会規範を蔑視し，自然現象の探究のみが幸福への道であるとして，公的生活の煩わしさを避ける生活を求めた。

④ 社会規範を蔑視し，自然に与えられたものだけで満足して生きる人生を理想とし，無欲，無所有こそ幸福の要件であると考えた。

問３　下線部(b)に関して，「自然と調和して生きる」とは何を意味するのか。最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［34］【2010 年本試験】

① 人間の理性を正しく働かせ，自然を貫く理法と一致することで，心を乱されることなく生きよ，という意味

② 感情に左右されやすい人間の理性を離れ，自然を貫く理法に従うことにより，心の平安を得て生きよ，という意味

③ 文明化された都市においては理性的な判断を惑わすものが多いため，自然の中で魂の平静を求めて生きよ，という意味

④ 人間の理性を頼みとして努力をするのではなく，自然が与えるもので満足することを覚えよ，という意味

問４　下線部(c)に関して，ストア派のアパテイアの説明として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［35］【2013 年本試験】

① 自然に従って生きることで，魂が完全に理性的で調和したものとなり，欲望や快楽などの情念によって動かされない状態。

② 情念や欲望が理性の命令に聞き従うことで，魂の三部分間の葛藤や分裂が克服され，心が全体として理性によって制御された状態。

③ 過剰な情念に満たされることと，情念に心が少しも動じないことの中庸として見いだされる，有徳な人間にふさわしい適度な情念をもった心の状態。

④ 苦しみや悲しみなどが取り除かれて，心のうちに快楽が得られることによって，魂が浄化された平静な状態。

問５　下線部(d)に関して，エピクロスがとった死に対する姿勢についての説明として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。［36］

① われわれが死ねば生命なき原子へと解体するだけである。

② 死後の懲罰などを恐れて不安に苦しむ必要はない。

③ 我々が存するかぎり死は存せず，死が現に存するときはもはやわれわれは存しない。

④ 死を運命として理性的に受け入れ，感情に流されないことが大切である。

問６　下線部(e)に関して，アパテイアを意味するラテン語を，次の①～④のうちから一つ選べ。［37］

① アニュスデイ　② ニルアドミラリィ　③ イマーゴデイ　④ ペルソナ

問７　次の文章は，人生の短さを論じたストア派の思想家セネカが今という時の価値について述べたものである。その内容の説明として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。［38］（2018 年センター追再試験より）

ところで，自分には予見の能力があると言って自慢する者たちの判断ほど軽薄なものがあり得ようか。人は，より善く生きようとしてなおさらせわしなく何かに忙殺される。……人は，これを，次にはあれを，と考えをめぐらせ，遠い将来のことにまで思いを馳せる。ところが，この先延ばしこそ生の最大の消費なのである。先延ばしは，先々のことを約束することで，次の日が来るごとに，その一日を奪い去り，今という時を奪い去る。生きることにとっての最大の障害は期待を持つこと，つまり，明日と言うときに依存し，今日という時を失うことである。君は運命の手中にあるものをあれこれ計画し，自分の手中にあるものを喪失している。君はどこを見つめているのか。どこを目指そうというのであろう。来るべき本来のものは不確実さの中にある。直ちに生きよ。

（『生の短さについて』より）

① 人間は，今日できることは明日でもできると考え，怠惰な毎日を過ごしがちであるが，それは時間の浪費につながる愚かな行為であるから，将来の計画をしっかりとたてたうえで，今を大切に生きなければならない。

② 人間は，善き生のために未来のことを考え，様々な計画をたてるあまり，この今という時の価値を見失いがちであるが，自分が本来は手にしている今という時を真剣に生きることが大切である。

③ 人間にとって，目前の事柄に追われ，多忙な毎日を送ることは，長期的な視野で人生を考える時間をなくすことであるから。目前の事柄ではなく，遠い将来に目を向けて人生の計画を練ることを優先すべきである。

④ 人間にとって，未来の運命は完全には予測できないが，自分が手にしてきた過去の経験から未来を推測することはできるのだから，善き生のために今という時をいかに過ごすべきかを真剣に考える必要がある。

第５問　次の文章を読み，下の問い（**問１～問９**）に答えよ。（配点　24）

キリスト教はユダヤ教を母胎としてうまれた。ユダヤ教は，世界を創造した全知全能の存在であり，人格的存在である唯一の神ヤハウェを信じるユダヤ人の民族宗教である。

ユダヤ教の聖書はキリスト教によって (a)『旧約聖書』と位置づけられ，そこにもられた思想（ヘブライズム）は，ギリシア思想（ヘレニズム）とともに，西洋思想の源流となった。

ユダヤ人にとって大きな意味をもつできごとは，(b)エジプトからの脱出である。『旧約聖書』によると，(c)アブラハムの子孫であるユダヤ人は神との契約によって選びだされ，救いを約束された民族であった。ユダヤ人は，古くはメソポタミアで遊牧生活を送っていたが，パレスチナ地方に住むようになり，一部はさらにエジプトに移った。しかし，紀元前 13 世紀ごろ，ユダヤ人はエジプトで奴隷状態におちいっていた。彼らは，神の命を受けたモーセにひきいられてエジプトを脱出し，約束の地［　39　］をめざした。その途上，彼らは［　40　］でモーセを介して神と契約をむすんだ。この契約で，神は，彼らが神の意志に従うかぎり，彼らを救うと改めて約束し，神の意志を (d)「モーセの十戒」をはじめとするさまざまな (e)律法（トーラー）の形で示して，これを守るようにユダヤ人に要求し，彼らもそれを守ることを誓った。

神は，選んだ民に常にあつい関心をよせている。そのため，神は民族の歴史とかかわる。モーセの死後にパレスチナ地方を征服したユダヤ人は，紀元前 11 世紀末にイスラエル王国を樹立し，前 10 世紀の［　41　］とソロモン王の時代に栄えた。しかし王国はその後，南北への分裂を経て滅び，(f)ユダヤ人は他民族の支配下におかれた。

この亡国の苦難は，［　42　］たちによって，すでに南北分裂の時代に告げられていた。［　42　］たちによれば，当時のユダヤ人の社会は，ヤハウェ以外の神々に走り，まずしい同胞を虐げ，孤児・寡婦・病者といった弱者をいじめるなど，かつて抑圧されていた自分たちがヤハウェによって解放されたことを忘れて，神の民にふさわしくないあり方におちいっている。［　42　］たちは，そのような社会の現状を批判し，それは神にとっては国家を滅ぼすに値するものであると人々に警告していた。

問１　文章中の空欄［　39　］～［　42　］に入る最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［39］
① エデン　② ハラン
③ シナル　④ カナン

［40］
① 葦の海　② モリヤ
③ シナイ山　④ オリーブ山

［41］
① ダヴィデ　② ネブカドネザル
③ サウル　④ ヨシュア

［42］
① 使　徒　② 預言者
③ 統治者　④ 哲学者

問２　下線部(a)に関して，旧約聖書のエピソードとして**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。［43］

①　主なる神が造られた野の生き物のうちで，最も賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。「園のどの木からも食べてはいけない，などと神は言われたのか。」女は蛇に答えた。「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。でも，園の中央に生えている木の果実だけは，食べてはいけない，触れてもいけない，死んではいけないから，と神様はおっしゃいました。」蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。それを食べると，目が開け，神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」女が見ると，その木はいかにもおいしそうで，目を引き付け，賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ，一緒にいた男にも渡したので，彼も食べた。二人の目は開け，自分たちが裸であることを知り，二人はいちじくの葉をつづり合わせ，腰を覆うものとした

②　神は言われた。「我々にかたどり，我々に似せて，人を造ろう。そして海の魚，空の鳥，家畜，地の獣，地を這うものすべてを支配させよう。」神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。「産めよ，増えよ，地に満ちて地を従わせよ。海の魚，空の鳥，地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」神は言われた。「見よ，全地に生える，種を持つ草と種を持つ実をつける木を，すべてあなたたちに与えよう。それがあなたたちの食べ物となる。

③　第二の獣は，獣の像に息を吹き込むことを許されて，獣の像がものを言うことさえできるようにし，獣の像を拝もうとしない者があれば，皆殺しにさせた。また，小さな者にも大きな者にも，富める者にも貧しい者にも，自由な身分の者にも奴隷にも，すべての者にその右手か額に刻印を押させた。そこで，この刻印のある者でなければ，物を買うことも，売ることもできないようになった。この刻印とはあの獣の名，あるいはその名の数字である。ここに知恵が必要である。賢い人は，獣の数字にどのような意味があるかを考えるがよい。数字は人間を指している。そして，数字は六百六十六である。

④　主はノアに言われた。「さあ，あなたとあなたの家族は皆，箱舟に入りなさい。この世代の中であなただけはわたしに従う人だと，わたしは認めている。あなたは清い動物をすべて七つがいずつ取り，また，清くない動物をすべて一つがいずつ取りなさい。空の鳥も七つがい取りなさい。全地の面に子孫が生き続けるように。七日の後，わたしは四十日四十夜地上に雨を降らせ，わたしが造ったすべての生き物を地の面からぬぐい去ることにした。」ノアは，すべて主が命じられたとおりにした。ノアが六百歳のとき，洪水が地上に起こり，水が地の上にみなぎった。

問３　下線部(b)に関して，次のＡ～Ｃのエジプト脱出のエピソードの順番として最も適当なものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。［44］

Ａ　真夜中になって，主はエジプトの国ですべての初子を撃たれた。王座に座しているファラオの初子から牢屋につながれている捕虜の初子まで，また家畜の初子もことごとく撃たれたのでファラオと家臣，またすべてのエジプト人は夜中に起き上がった。死人が出なかった家は一軒もなかったので，大いなる叫びがエジプト中に起こった。

Ｂ　モーセは，しゅうとでありミディアンの祭司であるエトロの羊の群れを飼っていたが，あるとき，その群れを荒れ野の奥へ追って行き，神の山ホレブに来たそのとき，柴の間に燃え上がっている炎の中に主の御使いが現れた。彼が見ると，見よ，柴は火に燃えているのに，柴は燃え尽きない。

Ｃ　主はモーセに言われた。「海に向かって手を差し伸べなさい。水がエジプト軍の上に，

戦車，騎兵の上に流れ返るであろう。」モーセが手を海に向かって差し伸べると，夜が明ける前に海は元の場所へ流れ返った。エジプト軍は水の流れに逆らって逃げたが，主は彼らを海の中に投げ込まれた。水は元に戻り，戦車と騎兵，彼らの後を追って海に入ったファラオの全軍を覆い，一人も残らなかったイスラエルの人々は海の中の乾いた所を進んだが，そのとき，水は彼らの右と左に壁となった。

① ＡＢＣ　② ＡＣＢ　③ ＢＡＣ
④ ＢＣＡ　⑤ ＣＡＢ　⑥ ＣＢＡ

問４　下線部(c)に関して，アブラハムの息子の名前として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［45］
① イサク　② ヤコブ　③ カイン　④ ヤペテ

問５　下線部(d)に関して，モーセの十戒の内容として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。［46］
① けがれたものを食べてはならない
② あなたには，わたしをおいてほかに神があってはならない
③ あなたの父母を敬え
④ 盗んではならない

問６　下線部(e)に関して，律法の内容として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。［47］
① レビ記　② ヨブ記　③ 創世記　④ 出エジプト記

問７　下線部(f)に関する出来事として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［48］
①バビロン捕囚　②イェリコの戦い　③カノッサの屈辱　④ユダヤ戦争

問８　ユダヤ教の選民思想を表す記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［49］（2010 年センター追再試験より）

① 厳しい自然に立ち向かうなかで育(はぐく)まれた信仰であり，世界の創造主が現世に遣わした神の子が，彼らを選びその繁栄と救済を約束した。
② 異民族との闘争のなかで育まれた信仰であり，彼らの血統が優れているがゆえに，人格を超えた神が，彼らを永遠の救いに導く約束をした。
③ 異民族からの圧迫などの苦難のなかで育まれた信仰であり，唯一の絶対神である人格神が，彼らを選びその繁栄と救済を約束した。
④ 厳しい自然に翻弄(ほんろう)されるなかで育まれた信仰であり，人格を超えた神である宇宙の根本原理を理解できる彼らだけに，永遠の救いが約束された。

問９　旧約聖書に登場する宗教的指導者モーセについて述べたものとして最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［50］（2006 年センター本試験より）

① 王の宮殿で育てられたが，荒野で啓示を受け，奴隷となっていた同胞を約束の地へと向かわせ，神から授けられた掟(おきて)を人々に示した。
② 異民族による支配は，多神教の影響による宗教的な堕落や貧者を虐げる社会的不正に対する神の罰だとして，神の裁きと救済を説いた。
③ 山の洞窟(どうくつ)で神から啓示を受け，預言者として，礼拝や喜捨などの宗教的義務を果たし敬虔(けいけん)な信仰生活を送るべきことを説いた。
④ 王子として生まれ育ったが，死や病気に直面する人間の苦しみについて思い悩み，王家を出て真理に達し，人々にそれを示した。

これで問題は終わりです。